

## 岡山実験動物研究会の再出発（その4：2010年度）

三谷 恵一 *Keiichi Mittani, Litt.D.*

岡山実験動物研究会会長

### 特色ある岡山実験動物研究会

The *Okayama Association for Laboratory Animal Science* was established in 1983, and is maintained by the researchers and technicians who belong to universities, institutes, or companies mainly in Okayama prefecture of Japan and are engaged in Laboratory Animal Science. This association holds scientific meetings in Okayama twice a year, and publishes an annual journal.

The aims of this association are :

- to promote exchange of knowledge on Laboratory Animal Science among researchers and technicians the fields of medical, pharmaceutical, agricultural, and biological science:
- to promote friendship and collaboration among the researchers and technicians in Laboratory Animal Science:
- to contribute to the development of Laboratory Animal Science:
- and to promote ethical care and humane use of animals in research through recognition of scientific responsibilities. [by 国枝哲夫常務理事 岡山実験動物研究会 HP より]

### 研究会会長あいさつ

1. 本研究会は、特別講演・招待講演・会員による研究発表を中心とする会合を年2回開催しています。本研究会に参加することで、見聞を広め、懇親会を通して会員同士や企業関係者とお友達になれます。人類と動物の幸福のために、日夜研究に勤しむひとりひとりの自己実現(self actualization)を目標とします。
2. 平成19(2007)年より、念願のホームページが立ち上がりました。本ホームページを通じて今後この研究会の活動を皆様に向けて広く発信していく所存です。
3. 研究会組織のページを開いて戴くと、賛助会員(研究会助成企業)として20社近くが名を連ねていることが一目瞭然となります。
4. 学術誌として毎年1回発行する『岡山実験動物研究会報』は、全国的に評価は高く、第1号～24号までを積み重ねますと厚さ10センチとなり、バックナンバーの製本2冊化も達成し、国会図書館にも導入されました。

これを機会に、会員数がますます多くなり、実り多い楽しい研究会へと更に発展させて参りましょう。[by 三谷恵一会長 岡山実験動物研究会 HP より]

### 2010(平成22)年度の活動

第59回岡山実験動物研究会 2010年7月2日(金)  
13:30～17:45 岡山大学理学部

一般講演1 マウス精巢におけるTMEM48/NDC1と相互作用するタンパク質の探索

梶田 晋平ら(岡山大学・大学院自然科学研究科)

一般講演2 ラット脂肪代謝におよぼすトウガラシの効果

森脇 晃義ら(中国学園大学・現代生活学部・人間栄養学科)

特別講演1 スンクスの実験動物化とその特性—とくに低温不耐性について

織田 銑一(岡山理科大学・理学部・動物学科・教授)

特別講演2 川崎医科大学医用生物センターにおける管理運営の現状～微生物統御、衛生管理を中心として～

井上 真理子(川崎医科大学・中央研究部・医用生物センター)

特別講演3 両生類のように人間は再生できるようになるのか?

佐藤 伸(岡山大学・異分野融合先端研究コア)

\* 今回の研究会は、例年以上の大勢の方々（60名超）にご参加戴きました。先生方のご講演も、大変熱のこもった先端的な内容であり、充実した研究会になりました。皆様ありがとうございました。各先生方のご講演要旨は、上記タイトルにリンクする形で掲載しております。[by 嶋村三智也理事 岡山実験動物研究会 HP より]

第 60 回岡山実験動物研究会 2010 年 11 月 26 日  
(金) 13:30~17:30 ピュアリティまきび

賛助会員による講演 マイナスイオンの効能効果と  
マイナスイオン発生器（オーリラ）の開発と  
試験について

長澤 通 ((株)GSD・代表取締役)

特別講演 1 実験動物としてのウズラの有用性

高橋 慎司・清水 明・川嶋 貴治 (国立環境研究所・環境研究基盤技術ラボラトリー  
生物資源研究室)

特別講演 2 岡山理科大学理学部動物学科における  
動物資源

城ヶ原 貴通 (岡山理科大学・理学部・動物学  
科)

特別講演 3 社会性昆虫における繁殖システムと役  
割分業と制御機構

松浦 健二 (岡山大学大学院環境学研究科・昆  
虫生態学研究室・農学部)

\* 今回の研究会は、化学物質有害性評価等への活用を  
念頭においたウズラの基礎研究、貴重な動物資源の  
保存の取り組み、我々の想像を超える程の高度なシ  
ロアリの繁殖システムの解明等、非常に価値の高い  
講演が続き、講演直後から懇親会にて活発なディス  
カッションが続きました。[by 嶋村三智也理事 岡  
山実験動物研究会 HP より]

## 「岡山実験動物研究会報」電子媒体化達成！

- ① 27 年間に第 26 号まで続き全国的評価の高い  
「岡山実験動物研究会報」バックナンバー 2  
冊体制の製本（第 1 号～第 13 号、第 14 号～  
第 24 号）が 3 部出来上がり、1 部は国会図書  
館に納められました。2 部は、事務局にあり  
ます。本号は、第 27 号です。
- ② 更に、岡山大学学術成果リポジトリへ電子媒  
体化し、何号の何頁でも瞬時に世界のどこか  
らでも引き出せ、プリントアウト可能となり  
ました。本号も、2,3 ヶ月後には電子化され  
て永久に保存されます。

## おしらせ

- ・ 賛助会員の広告を掲載いたしています。奮って  
広告を多数お寄せ下さい。
- ・ 東日本大震災の影響は、それぞれの会員にさまざ  
まに影響していることでしょう。いかなる状況に  
あっても、人々と動物の幸福の道を勇気を出して  
歩まれますようお祈りいたします。本誌の編纂を  
ご尽力くださっている佐藤勝紀元会長のご実家は、  
仙台市の近くの大賀城市にあります。第 60 回研究  
会で講演（賛助会員による講演）くださった長澤  
通(株)GSD・代表取締役の会社（北日本支店、お  
客様相談室）は山形市にあります。
- ・ 倉林 譲前会長は、日本実験動物学会功労賞を受  
賞されました。
- ・ 岡山大学名誉教授・岡山心理学会理事・京都大学  
文学博士の三谷恵一会長(73)は、契約に基づき本  
年 3 月 19 日に IPU・環太平洋大学・次世代教育  
学部・学級経営学科教授を退職しました。ただし、  
同学科通信教育部の非常勤講師としては継続です。  
自宅の新メールは [k..mittani@bronze.ocn.ne.jp](mailto:k..mittani@bronze.ocn.ne.jp)  
です。
- ・ 国立遺伝学研究所の初期発生研究部門の川上  
浩一教授より分与いただいたゼブラフィッシュ  
(*Danio rerio*) ♂3 匹は、借家で元気にしてい  
ます。毎日 10 秒間声をかけて遊んでやり、  
生得的な行動科学の研究を自宅で継続してい  
ます。教育がなくなると、死ぬまで研究ですね。